

北日高・戸蔦別川本流（沢例会A・P）

戸蔦別川Bカール沢～七つ沼カール～戸蔦別岳～Aカール沢下降

2013年8月2～4日

L金澤弘明 長倉冬彦

トッタベツヒュッテは珍しいことに私達だけの貸切であった。翌朝は4時起床としながらも札内岳に向かうBパーティーとの楽しい酒盛りは12時まで続いてしまった。

8月3日

札内岳に向かう山本Pとはエサオマントッタベツ林道入り口で別れ、二日酔い気味で調子の上がないまま黙々と林道を歩く。八の沢入り口で沢靴に履き替え入溪。十の沢出合いまでは既に何回も歩いているが、今回はさらに繋がりの良い踏跡を見つけたおかげで897m二股まで1時間15分しかかからなかった。

本流の函も問題なく通過し995m三股に到着、B/Cカールへ向かう右股に入る。Co1020mの15m滝は右岸の巻き道から越え、1120m二股へ。目指す左股は2段20m位の滝になっている。一段目は右岸を直登し、2段目は左岸を高巻いたのだが、左岸は濃密な笹藪斜面でいきなり苦勞してしまう。ここにはどうやら右岸をまとめて高巻く踏跡があるらしい。

比較的開けた沢に数m程度の滝が続き、これらは大抵直登できるが右岸に巻道がついていることが多い。やや大きなナメを過ぎると1300m二股で、右岸から水量の少ない20m位の滝が合流してくる。Bカールに直登するのはこの沢のはずだが、意外にもこの枝沢を登路とする記録を見たことが無く、次の右岸から入る沢が使われているようだ。Co1320mで左岸から雪溪の沢が入り、続いて右岸から小沢2本が合流する。下流側のはほとんど水量が無く、上流側の沢を使うことにする。この沢の途中にある二股を左にとってもBカールに出るはずであった。

Co1480mあたりで青テープのある二股だが、テープが中途半端な位置にありどちらを指示しているのか分らない。左股はすぐ上で沢型が不明瞭になりそうなので、よりはっきりした右股を選択するが、水量がどんどん少なくなり滝も何もないままカール底に出てしまう。出口のすぐ手前には下と同じ青テープがあったので、出たところはBカールであると確信していたが、どうもBカールとは雰囲気が違う気がする。冷静に地図と見比べるとどうやらCカール南側の副カールに出てしまったようだ。ここから稜線に上がるにはあまり良いルートが無いようだ。Co1620ラインをトラバースしBカールに向かうことにした。

トラバースの前半部はかなり明瞭な獣道があるが、BカールとCカールを分ける小尾根に出ると灌木の藪漕ぎに変わる。尾根を回り込んだところでBカールのカール底に下りる。カール底は広く平らなお花畑になっていて、雪溪もあって水に不自由も無い。まったく天国のようなところで、日高でも5本の指に入る快適なカールだと思う。

ここからは戸蔦別岳頂上手前の稜線に直登する細いルンゼの他に、稜線に向かっては2本のガリーがあるが、左側のガリーを登ることにする。紫のツガザクラが目立つ見事なお花畑のカールバンドを左上し、ガリーに入ったところでシャリバテ気味になって一休み。ガリーの雪渓を避けるように右岸岩壁沿いを進むと全く藪漕ぎ無しで稜線に出る。稜線は雲の中で眺望もない戸蔦別登頂は割愛して、頂上手前を右にトラバースして幌尻岳に向かう登山道に出た。

七つ沼に下るのは30年振り位だろうか？カールバンドの踏み跡は表土が流され、所々ボロボロの岩盤が露出して荒れていた。七つ沼にはこんなに沢山キャンプサイトがあったかなあ？大きな沼の近くの砂地にテントを張る。夕方、立派な角を持った牡鹿がテントの周りをうろついていた。

長倉さんは久しぶりの沢登りということだったが、ここまで安定した遡行で全く問題なかった。この調子ならAカール沢の下降もすんなり行きそうに思われた。

06:05 出発-07:30 八の沢 07:50-10:00 995m二股-12:20 1360m二股-13:30 Cカール-14:00 Bカール-15:10 稜線-16:20 七つ沼カールC1

8月4日

朝から快晴の兆し、山本Pが泊まっているはずの札内岳も良く見えている。戸蔦別岳へは七つ沼カール底から直接頂上に直登するルンゼを詰めることにした。このルンゼは下半が細い涸沢状で、中間点の少し上でルンゼが一旦途切れて、短いがきつい藪漕ぎがあり、上部は草付きの急斜面になる。登山道を使うより時間的にはむしろ余計にかかるかもしれないが、晴れた日なら常に七つ沼カールを眼下に見下ろし達成感のある登りとなるだろう。頂上からは目前に幌尻岳が大きく、北にはP1967mが際立っている。南はナメワッカの上にカムエクが一段高く浮かび360°のパノラマだった。

下降では稜線を東に1740m付近まで下ってから沢に降りる予定だったが、頂上から直接Aカールに下ることにした。頂上直下は非常に急峻な草本帯で、手がかりになるような灌木がほとんど無い。ここでスリップしたら間違いなく滑落事故になってしまいうだろうと思われるほどの急斜面で、フェルト底の靴ではいささか危険なくらいであった。これを100mほど慎重に下るとごく小さな沢型になる。Co1730mで急なルンゼ状の雪渓になり、左岸岩壁をへつるようになると、末端は小さな滝状になって雪渓は一旦切れていた。下半部は慎重に雪渓の上を歩いて下る。

小さな滝も現れ沢らしくなってきたところで三つ目の雪渓が現れる。これは長さ100m位あり、末端はおそらくAカールのカール底と思われる段斜面に届いている。傾斜もさほど強くないので長倉さんに「ここなら滑っても平気だよ」と言うと、長倉さんは雪渓を一睨みするなりいきなり滑りこんで行った、「スピードセーブしてね」と背中に叫び、私も「しゃあない行くか」と・・・スピードコントロールなんて全くできなかったね「ああ、やばいやばい！止まれない！」・・・末端近くでようやく少しスピードが落ちたが、雪渓末端のガレの堆積に足から当たりについてようやく停止。いやあ、なかなかのスリルだったわ。

Co1180m の 15m滝は左岸を巻くが、ここはボロボロの岩盤のトラバースを強いられた。後続する長倉さんは灌木を伝って大きく高巻いて下ることになった。この下にはもう問題になるようなものは無く、結局一度もロープを使うことも無く 995m三股に降りることができた。

06 : 30 出発 - 07 : 45 戸蔦別岳 08 : 15 - 11:40 995m三股 - 12 : 50 十の沢 - 13 : 30 八の沢 14 : 00 - 15 : 10 6号堰堤下山

山本Pとは「お互い 3 時前後の下山になったらトッタベツヒュッテで合流しよう」と打ち合わせしていたが、6号堰堤には既に山本Pの車はなく、ヒュッテに残置した金澤車には「2時過ぎに出発」とのメモが残されていた。

参考グレード	戸蔦別川Bカール沢 (?)	2級下
	戸蔦別川Aカール沢戸蔦別岳直登沢	2級